

# 慈明寺町

## 荒廃から復興の慈明寺

地名が誕生した由来は、畝傍山の西北中腹に位置する慈明寺（曹洞宗）にあるようです。

畝傍山の西ふもと一円に現慈明寺と同名の大寺院が古くからあったらしく、その跡と見られる一带に古い礎石が残り奈良時代の瓦（かわら）も出土しています。

鎌倉時代の興福寺関係文書に地名の「慈明寺」が登場しており、江戸時代の観光案内（大和志）に「慈明廃寺」は「昔三十六院今唯中院一字」とあります。かつて繁栄を極めた大寺院が中世を経て江戸時代に入り荒廃したものでしょう。

地侍・慈明寺氏の再興と伝えられる現慈明寺は、江戸時代に荒廃するなかで唯一残った「一字」の法灯と慈明寺の地名を、息長く現代まで引き継いできた寺となります。

江戸時代に「慈明寺村」と呼ばれた当地は、米・裸麦・甘しょ・ぶどう・綿などを作る（農産物取調帳）農村でした。明治二二年に真菅村大字となり「檀原市慈明寺町」となったのが昭和三十一年です。

また、すでに他所へ移転した県農業技術センターの旧果樹試験場跡地だけが町内に残っています。